

第1学年国語科学習指導案

日時 平成18年11月9日(木)6校時
場所 遠野市立青笹中学校 1年教室
生徒数 11名
授業者 蒲生正光

- 1 単元名 6 自分を見つめる
教材名 「少年の日の思い出」(小説)

2 単元について

(1) 生徒の実態

反応がよく、前向きに学習に取り組んでおり、書く活動に対しても抵抗なく取り組むことができる。

小学校から、手がかりとなる語句をおさえて書き込みをしながら読みとるという学習をしているので、読み取りの際に文末や接続詞に注目すること、題名に関連させて読むことは定着している。また、「麦わら帽子」「大人になれなかった弟たちに……」の学習では、自分の考えをスムーズに書き、交流しあいながら心情の変化をとらえることができた。

これまでの学習において、問いに対しての答え方が対応していない場合や言葉が足りない面も見られるので、答え方を意識させること、不十分な場合には言葉を補わせることなどを意識して学習に取り組ませている。また、今後は既習の場面と未習の場面を関連付けて考える力や構成の工夫など作者の意図をとらえる力を身につけさせることが必要と考えている。

(2) 教材観

少年時代、ちょう集めのとりことなった「僕」はその熱情ゆえに近所に住む少年エーミールが解したクジャクヤママユを盗んでしまう。「僕」は返しに行くが、クジャクヤママユはポケットの中でばらばらになっていた。謝罪に行った「僕」も、冷淡で見下したような態度のエーミールに対して怒りを覚えながらも、「僕」は一度犯してしまった過ちはもはや償うことはできないことを悟り、最後に自分の収集を自らの手で押しつぶす。そのときの思いはすでに大人となった現在においても影を落としている。

構成の特徴としては、一種の額縁構造を持っており、前半の語りの時点から過去の出来事へとさかのぼる構成になっている。前半部は結末の伏線となっており、また、後半の回想部分は大きく二つに分かれている。

後半で述べられる「僕」のちょう集めへの熱情、盗み、謝罪、いずれの場面でも様々な表現を用いてそのときそのときの「僕」の心情がつつられていて、表現をもとに心情の移り変わりなどをとらえるのに、適した教材であり、登場人物の生き方を通して自分の生き方をも考えうる教材であると考えられる。

(3) 指導観

「僕」の行動や様子を表す言葉など手がかりになる記述を探するときには、一度サイドラインを引かせることで、明確にとらえさせ、見直しが容易にできるようにさせたい。また、扱う場面が広い範囲になるので、ノートに整理することで、「僕」の心情の変化を比較しやすいようにさせたい。

前半部分がかもし出す雰囲気、「僕」のちょう集めに書ける熱情、エーミールとのかかわり、盗みにいたるまでの心情とその移り変わり、謝罪の場面での「僕」の心情や考え方をとらえさせることで、ちょうをつぶす場面で感じたであろう後悔、屈辱感、怒りなど、「僕」の心情をより実感できると考える。また、自分のとらえた「僕」の心情を一度自分の言葉で書かせることによって、話し合いのときの自分の考えとの比較を容易にしたり、全体での発表のときに安心して取り組めるようにさせたい。

書く活動におけるサイドラインは、できるだけ必要な言葉のみに絞って引くように指示し、ポイントをおさえる力を養っていくとともに、さまざまな修飾語や人物の呼称など、表現の工夫を味わわせたい。

3 単元の目標・評価規準（本教材分）

- 作品の構成・展開に注意しながら、登場人物の生き方、心情の移り変わりとらえる。
- 作品の構成に注意して読み、言動に表れた登場人物の心情をとらえる。（読オ）
- 作品の展開を追いながら、登場人物のものの見方、生き方などをとらえる。（読オ）

4 単元の指導・評価計画（本教材分7時間扱い）

小6年 学習したことを生かして「海の命」

中1年 心の歩み「麦わら帽子」、「大人になれなかった弟たちに……」

教材	時間	学習の目標	学習内容（指導内容）	評価規準 評価方法
5年 の 読 む こ と	1	大まかな構成をとらえよう。	全文を通読し、作品の概要をとらえる。 ・場面わけ ・語り手の交代（額縁構造）	読語り手が交代していることをとらえ、時間の経過に即して場面わけることができる。
	1	「わたし」と「客」の会話の場面は何を表しているのだろうか。	前段の情景描写が後段の事件を暗示していること（伏線）をとらえる。	読前段の情景描写が表すものをとらえることができる。 言伏線とその効果を理解できる。
	1	「僕」のちょう集めに対する思いはどのようなものだったのだろうか。	「僕」のちょう集めにかける熱意とそれが今でも心に残っていることを行動と文末に注目してとらえる。	読「僕」のちょう集めに対する思いが大人になった今でも残っていることを読み取ることができる。
	1	「僕」とエーミールの関係はどのようなものだったのだろうか。	「僕」から見たエーミールの人物像と抱いている感情をエーミールについて述べた表現をもとにとらえる。	読エーミールに対して「僕」があまりいい感情を抱いていないことをとらえることができる。
	1	ちょうを盗んでしまうまでの「僕」の心情は、どう変わっていったのだろうか。（本時）	見ただけだったちょうを盗んでしまう「僕」の心情の変化とその経過を僕の心情を表す表現や擬人法からとらえる。	読ちょうを盗むにいたる「僕」の心情の変化とその経過をとらえることができる。
	2	「僕」はどのような気持ちで収集をつぶしたのだろうか。	盗みを犯した後、謝罪をしているときの「僕」の気持ちを表現を手がかりにとらえる。 これまでの学習をもとにちょうをつぶした「僕」の心情を考える。	読謝罪をしているときの「僕」の心情をとらえることができる。 読自分の大切な収集をつぶしてしまった「僕」の気持ちを考えることができる。

中2年 生きる姿「走れメロス」

5 本時の指導

(1) 本時のねらい

根拠を持って課題に取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）

ちょうを盗んだ「僕」の心情の変化とその経過をとらえることができる。（読むこと）

(2) 仮説とのかかわり

ア 手立て 「書く活動」にかかわって

【とらえる書く】……学習課題を自分で書くことによる課題解決への意識付けを図る。

【わかり合う書く】……自分の考えをノートに書くことで、話し合いの材料として活用させるとともに、友達の考えと比較を容易にし、自己評価できるようにする。また、板書事項をノートに書き写すことによって学習したことを再確認させる。

【見つめ直す書く】……学習内容を再構成することで定着を図り、ふりかえりによって、読みの技能を再確認したり、本時の授業態度の自己評価などを行ったりする。

イ 手立て 「支援や評価」にかかわって

書く活動に取り組む時間を確保し、じっくりと取り組むようにさせるとともに、自分の考えを一度書いておくことによって、別の考えと比べたり、まとめたりすることが容易になることを意識させたい。また、

まとめがよく書けている生徒を具体的にほめ、本人だけでなく周りの生徒が次にはどう生かせばいいのかが分かり、意欲を持てるようにする。

(3) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意事項(は支援)	具体的評価規準 方法
導入	<p>1 前時の想起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「僕」のちょう集めにかかる思いを想起する。 <p>2 学習課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の話聞き、課題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをもとに想起させる。 ・発問で揺さぶり、課題を意識づける。 	
6分	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ちょうを盗んでしまうまでの「僕」の心情は、どう変わっていったのだろうか</p> <p>【とらえる書く】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">必要感</p>		
展開	<p>3 学習の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「僕」の気持ちや様子を手がかりにすることを確認する。 <p>4 学習課題の追究</p> <p>(1)「僕」の熱情</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クジャクヤママユに対する思いがわかるところにサイドラインを引き、それをもとに全体で確認する。 <p>(2)「見たい」から「手に入れたい」への変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「見たい」から「手に入れたい」に変化した理由と考えられるところにサイドラインを引き、そこを選んだ理由を書かせる。 <p>【わかり合う書く】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自己解決力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「見たい」が「すると、四つの大きな斑点が.....。」のところから「手に入れたい」に変わったことをとらえる。 <p>【わかり合う書く】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">有用感</p> <p>(3)「僕」の満足感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょうを手に入れ、大きな満足感を感じていることをとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ絞ってサイドラインを引くよう指示する。 <p style="text-align: center;">主語が「僕は」ではない文を探させ、その表現からどんな感じがするかを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと比較させながら発表させるようにする。 ・他の生徒の発表についてどう思うかを聞くなど、発表するだけにならないように進める。 ・表現技法(擬人法)の効果に触れる。 	<p>4(2)読むこと ノート</p> <p>A手に入れたいという誘惑に負けた「僕」の姿を擬人法の効果をもたえてとらえている。</p> <p>B手に入れたいという誘惑に負けた「僕」の姿を話し合いをとおしてとらえている。</p> <p>C「僕」が誘惑に負けたことを擬人法を使うことによって表現していることを説明する。</p>
34分			
終末	<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の答えをノートにまとめる。 <p>【見つめ直す書く】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">達成感、内容理解</p> <p>6 ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日のふりかえりを書く。 <p>【見つめ直す書く】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学び方、自己評価</p> <p>7 次時の予告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・謝罪の場面について学習することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『「見たい」だけだったはずの「僕」は』につながるように、変化のきっかけも入れてまとめさせる。 ノートの色のところにある語句を中心にまとめるよう指示する。 ・表現技法に注目することを書いてきた生徒に発表させる。 	
10分			

(4) 板書計画

少年の日の思い出

ちやうど盗んでしまつまでの「僕」の心情はどう変わつていったのだろうか

「僕」の様子、心情を表す言葉
二年たつて
僕の熱情 まだ絶頂

クジヤクヤママユをさなぎからかえした
熱烈に欲しがつていた
興奮
見られるときが待ちきれない

エミールはいなかった 見たい

斑点だけは見られなかった
胸をときどき
紙きれを取りのけたい

斑点が、僕を見つめた。
この宝を手に入れたい
(逆らいがたい欲望)

盗みを犯した
大きな満足感

まとめ

